



西アフリカへ“希望のボール”今年も

湘南の市民から集めた約80個を発送

長年、内戦に苦しんできたアフリカのシエラレオネとリベリア。サッカー熱が高い両国の子どもたちのもとに、日本の市民たちの思いが詰まったサッカーボールが、今年も届けられます。

Jリーグの湘南ベルマーレ（本社：神奈川県平塚市、代表取締役：真壁潔）と、国際支援 NGO のピース ウィンズ・ジャパン（PWJ、本部：東京都世田谷区、統括責任者：大西健丞）が、国際総合物流企業のディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社（DHL ジャパン、本社＝東京都品川区、代表取締役社長：ギュンター・ツォーン）の協力を得て、サッカーボールを贈るプロジェクトが、ワールドカップイヤーの今年も実施されます。湘南ベルマーレが地元の市民たちから集めたボール約 80 個が 8 月 23 日、現地に向けて旅立ちました。

湘南ベルマーレと PWJ は、さまざまなプロジェクトやコミュニティ活動をともに行いながら、国際支援の輪を広げていくことを目的に提携を結んでいます。ボールを贈る事業は、無償輸送を申し出た DHL ジャパンとともに三者協働で実施され、2005 年 6 月に約 150 個のボールが PWJ が人道支援を行なっているイラクへ届けられのを手始めに、2005 年 9 月には、スマトラ島沖地震・津波で大きな被害を受けたインドネシア・アチェ州と、シエラレオネ、リベリアに向けて、計 150 個のボールが贈られました。また、2005 年 12 月には、湘南ベルマーレの選手らがアチェを訪問。子どもたちとのサッカー交流も実現しました。

2006 年 6 月 7 日から 7 月 1 日まで、平塚競技場で行われた湘南ベルマーレの試合で、市民のみなさんに呼びかけて集まったボールは 89 個。今年は DHL の社員ボランティアが PWJ 事務所で行われたボールの仕分け作業にも参加。社員の手によって箱に詰められました。

シエラレオネ、リベリアの両国とも、サッカー人気は高く、広場とボールさえあればすぐにサッカーの輪ができますが、ボールを手に入れるのは簡単なことではありません。昨年、アチェを訪問した湘南ベルマーレの MF 加藤望選手は「現地の子どもたちとふれあい、ともにボールを蹴り、彼らの喜ぶ姿と笑顔を目の当たりにして、活動の意義をあらためて感じました。毎日を精一杯、生きている子どもたちへ、市民・サポーターの皆さんの気持ちもしっかりと届いていると思います」と話しています。

ボールは DHL の輸送ネットワークにより、数日中に各国に到着。現地で支援活動続ける PWJ を通じて、シエラレオネやリベリアの難民・帰還民の子どもたちなどに順次、配布されます。

「アチェを訪れた湘南ベルマーレ加藤望選手、小林弘記選手」「集まったボールを仕分けする DHL の社員ボランティア」「3カ国への輸送を前に、ボールを DHL に託す PWJ のスタッフ」の写真、提供可能です。

このリリースに関するお問合せは、ピース ウィンズ・ジャパン広報までお願いします。

TEL:03-5451-5406 / FAX:03-5451-5401 / pr@peace-winds.org